

[川崎大師平間寺信徒会館]見学レポート

資料 1

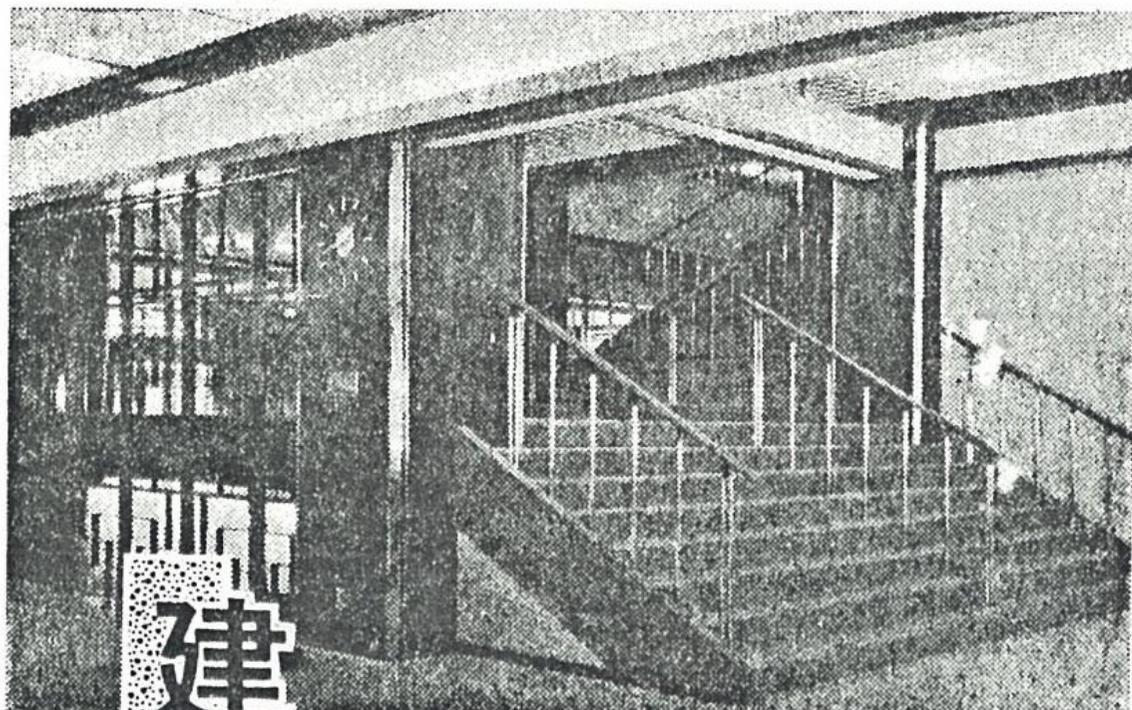


(3)

昭和49年5月21日(火曜日)

日刊 建設

一階中央階段



川崎大

八師信徒会

初開りはじま。

一年を通して多くの参詣者があることで知られる川崎大

師。正式には、「真言宗智山派・大本山金剛山金葉院平間寺」とい
勝寺、東京・八王子の高尾山薬王院とならぶ「関東三山」の一つであ
いをみせる信徒会館——近代風の寺院建築のすばらしさに訪れる人の
次第に上へ、みごとに描き出された機軸物をゆつくりと追いつながらべ
つ宝塔へ集まる。その上でさん然と輝やく宝珠、その下の古色蒼然と
微するにふさわしいみごとな出来映えである。昨年十一月に

落成、その記念行事として去る四月二十一日から盛大に

行われている大法要もきょうで終わる。設計監理

は大岡実建築研究所、施工は大林組。い

ずれも同寺建設工事を承らく手

がけている恩の合った

同士の担当で

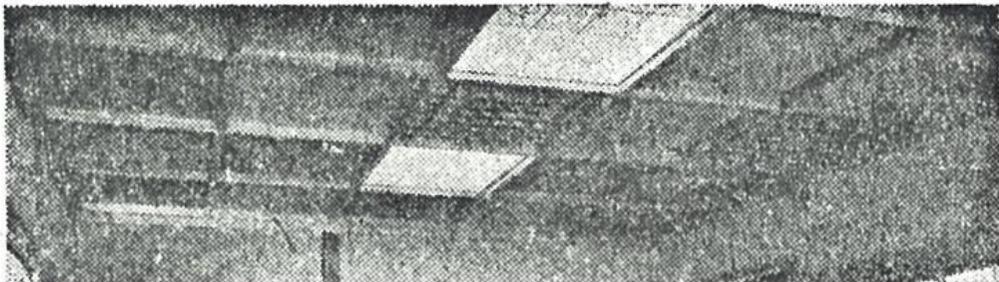
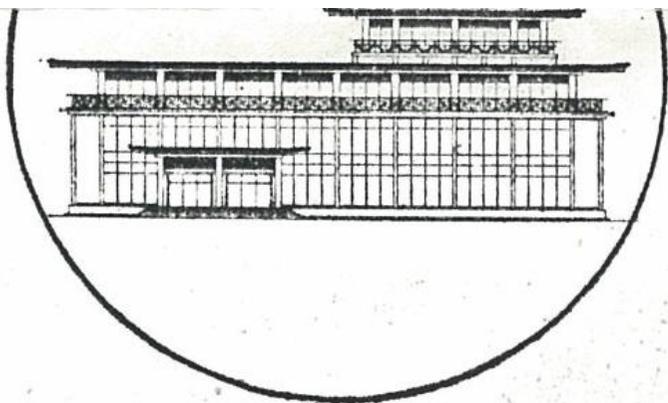
ある。

建築特集

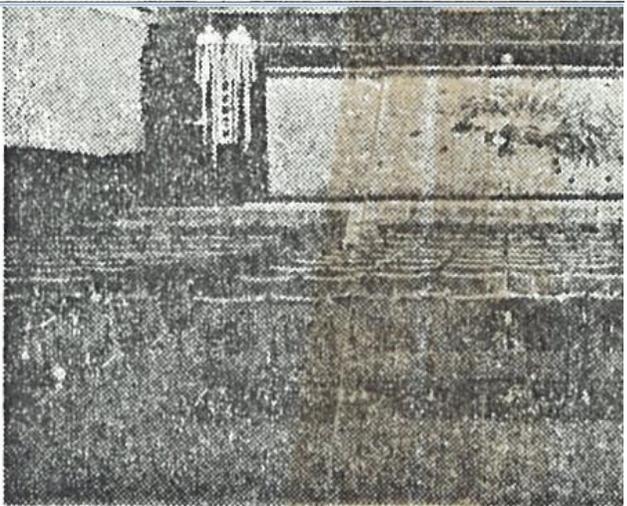




千葉原成田市の成田山新
ある。その境内の一角に静かな行
の足がふと止まる。視線は下から
ベントハウスのEとどっしりと建
とした緑青の蓮弁は寺院建築を家

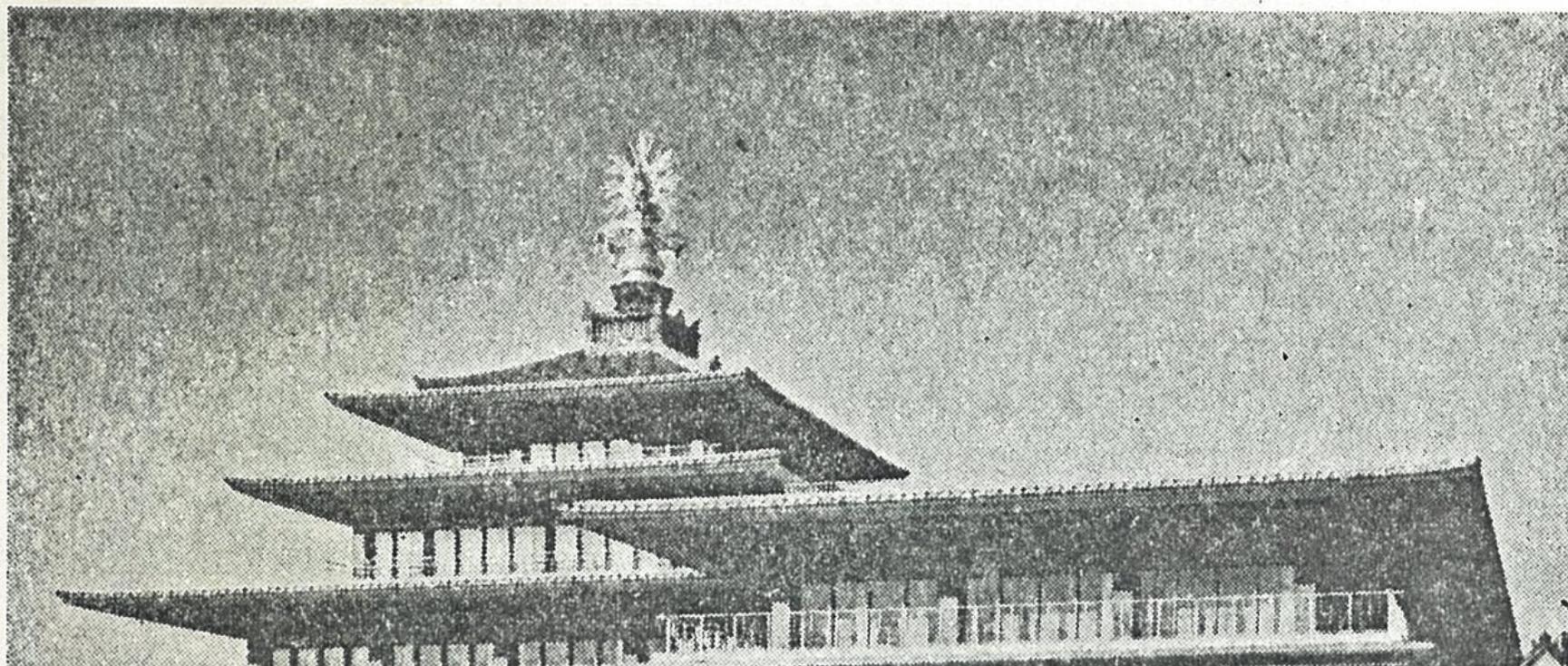


真
實



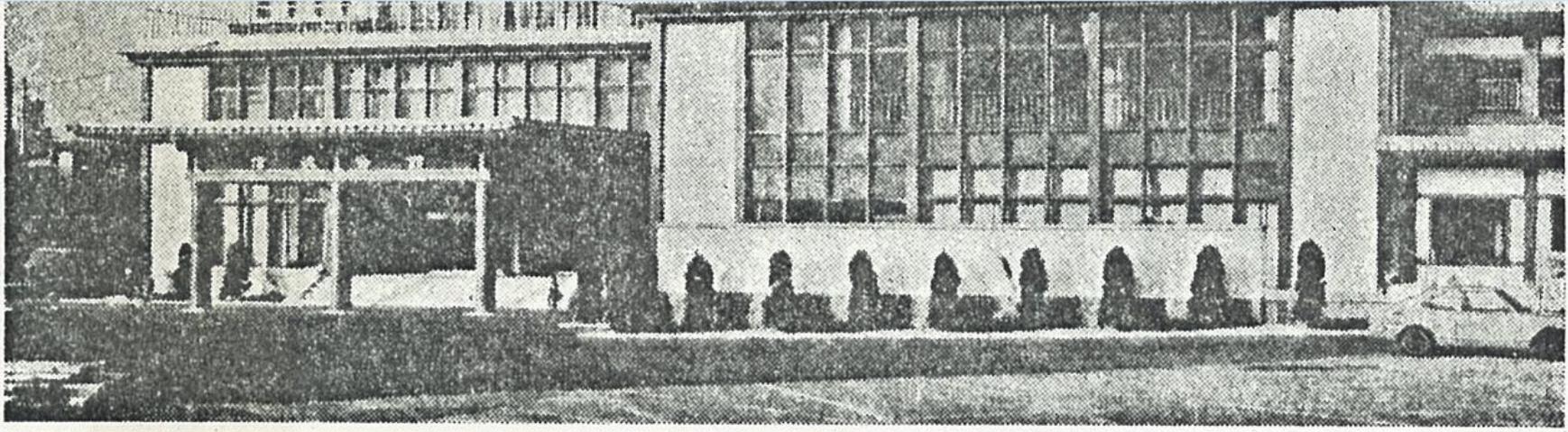
室 (三階)

- ▽昇降機 三四・ブナCド
- ▽外装 屋根 奈良平城瓦
本葺き、陸屋根 アスフ
アルト防水シンターコン
クリート押え、庇 奈良
平城瓦本葺き
- ▽外壁 アルミ珪色カーチ
ンウォール、コンクリー
ト打放し吹付タイル仕上
- ▽内装 床テラタイル貼り
モルタル、カーペット敷
き、木造二重床、ジュ
タン敷き、和室木造二重
床畳敷き
- ▽壁 モルタルグライト吹
付け、布貼り、シユラク
塗り
- ▽天井 プラスターボード
布貼り、壁天井は不燃材
使用、和室木造格天井
- ▽受電 三相三線式六、六
〇〇KVA、单相二五五
KVA
- ▽発電機 ディーゼル発電
機一二五PS三相三線式
六、六〇〇V、一〇〇K
VA
- ▽昇降機、乗用エレベータ
ー二基、ダムウエーター
二基
- ▽大講堂設備、調光、舞台
放送、映写各装置
- ▽防災設備 屋内消火栓、
スプリンクラー、自動火
災警知機、非常放送設備
排煙設備
- ▽T・V共聴設備 エア
シューター設備
- ▽工期 昭和四十六年六月
二十一日 同四十八年十
月三十一日



さん然と輝やく宝珠、みごとな庇があたり

景観をそえる



大岡実建築研究所

設計監理

寺院建築は、その時代の思想、変化など歴史的背景を知るうえで貴重な存在となることはいまさらいうまでもないが、とくに、建築的観点から、当時の技術水準を物語るといふ一面をもっている。

去る昭和二十七年から始まった同寺の再建計画にずっと参画、こんどの信徒会館で作業所長をつとめた大林組の宇賀神所長は、こうした寺院建築に対する技術者としての責任の重さを語りながら、「しかし、それもいわゆる『浄財』という資金的な援助があつてこそはじめて実現するものである、ということ忘れてはならない」と強調する。逆にいえば、浄財という「特殊」なものの中でいかに寺院を建築していくか想像以上のものがある、ということなのかも知れない。「計画をする人(寺院)資金的な面をバックアップをする人(信者)、施工する人(技術

施 工



株式会社 大林組

代寺院建築に新風

大林組、独自の工法盛り込む

の建設にあたっては、これらのことを常に念頭に置きながら施工してきた」と同所長は語る。

く体は、構造が鉄骨鉄筋コンクリート造であり、また特殊工法といったものは採用していないが、信徒会館という建物の性質上、大広間、講堂、ステインドホールなど大空間が極めて多く、かなり苦労した。とくに大広間とはいっても、その中には大小入りまじった部屋が必要に応じて仕切られるようになってきているため、その辺のところが施工面に一層複雑さを加える結果となった。

ことも大きな影響を与えた。このことを総合してみると建築というものは使用目的一定してはいないというところ。一方、外装で最も注目される寺院建築の象徴である宝作・施工である。このうちアルキキャストに金箔を貼るのであるが、特にその皮膜の接着には特殊な樹脂を使用する。また、この宝塔の露盤蓮弁はコンクリートプロット特殊な工法によるプロソズを施したものであるが、これは従来の宗教建築ではまわられたことのない、全く初試みであり、その成果が関心から注目されている。

普通、こうしたものは木に銅板を巻くものであるが、ソズと同じ感じを出し、しなやかな、耐久的の面からこの工法がとられた。もちろんこのプロソズ仕上げは大林組でケースである。

このほか外装面で注目されるのは、屋根、庇とも奈良平葺きとしていて、同建にあたってはいずれもこだわっているのが特色。

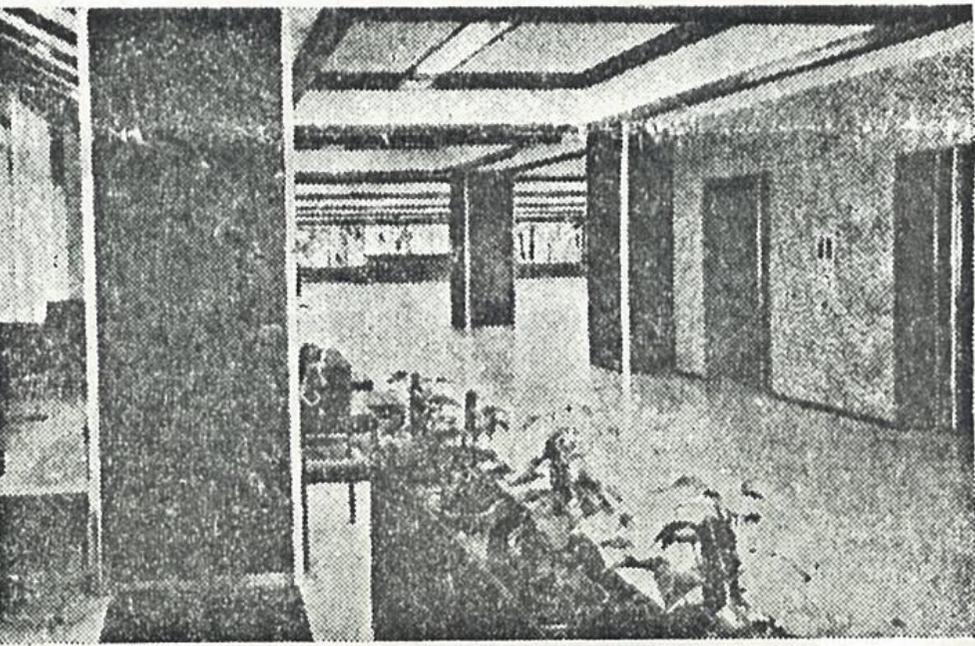
また、内装の具体的施工別項のとおりであるが、天階ともすべて不燃材として注目がされる。その工法

大 講



これ、宗教が常に施るに施うだ。れるの塔の製、宝塔、つたも、ど金箔、つてい、および、夕製に、仕上げ、の方法、たく行、めての、係者か

遊の上、プロ、かも紐、新工法



特殊な、も初の、にアルミの折板を使用して不燃化を図っている。

同社は、前述のとおり去る二十七年いらい同寺の再建工事を数多く手がけているが、こんどの信徒寺の再、会館完成まで延べ四二万五、〇〇〇時間にのぼる無事故無災害記録を達成した。基礎工法をじっくり方法は、まもり、ポイント工事については、井は各、所長自から第一線に出て陣頭指揮しているこ、をとったことがこのような好結果は格縁、をもたらしした。

堂 (地下一階)



建築概要

- ▽名称 川崎大師平間寺信徒会館新築工事
- ▽施工 大本山川崎大師平間寺
- ▽設計監理 大岡実建築研究所工学博士・大岡実、技師・松浦弘二
- ▽施工 株式会社大林組
- ▽施工場所 川崎市川崎区大師町四番四八号
- ▽建築面積 一、六一九・〇〇〇平方呎
- ▽回廊延面積 八八五・六九〇平方呎
- ▽構造・規模 鉄骨鉄筋コンクリート造、地下一階地上四階塔屋一階、延べ



資料 4



信徒会館

弘法大師ご誕生一千二百年讃仰と、昭和四十九年春の十年日毎のご本尊厄除弘法大師大開帳奉修の記念事業として建設された「川崎大師信徒会館」は、当山の教化の殿堂であり、更にご信徒と共にある会館、社会への奉仕につながる会館として、今後大いに活用されることが期待されております。

金色に輝く宝塔は、ご本尊弘法大師のご誓願宣揚と正法興隆を目ざす根本道場の象徴であります。

昭和四十六年六月 起工
 昭和四十八年十月 竣工
 建築様式……近代寺院風四階建（塔屋付・地下一階）
 建築面積……一、五五〇平方メートル（四七〇坪）
 延べ面積……五、二五〇平方メートル（一六〇〇坪）
 総建設費……十億 円
 設計監督……工学博士 大岡 実
 （副）技 師 松浦弘二
 施工者……株式会社 大林組



地階・大講堂



一階・ステンドホール







松浦弘二(前列左から二番目)



高橋隆天貫首(前列中央)と松浦弘二(右脇)、その右側は馬本総務

■ 信徒会館新築工事概要

設計監理	大岡実建築研究所 工学博士 大岡実 技師 松浦弘二
施工	株式会社 大林組
工期	自昭和46年6月21日 至昭和48年10月31日

工事概要

地下1階	地上4階 塔屋1階
建築面積	1,619,000㎡
建物延面積	5,369,891㎡
回廊延面積	885,690㎡
軒高	18,300m
最高	34,660m
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り
外装	屋根 奈良平城瓦本葺き、陸屋根アスファルト防水シンダーコンクリート押え 庇、奈良平城瓦本葺き
外壁	アルミ発色カーテンウォール コンクリート打放し吹付タイル仕上
内装	床テラタイル張り、モルタル、カーペット敷き、木造二重床、ジュータン敷き、和室木造二重床畳敷き
壁	モルタルグライト吹付、布貼り、ジュラク塗り
天井	プラスターボード布貼り、壁天井は不燃材使用、和室木造格天井

設備概要

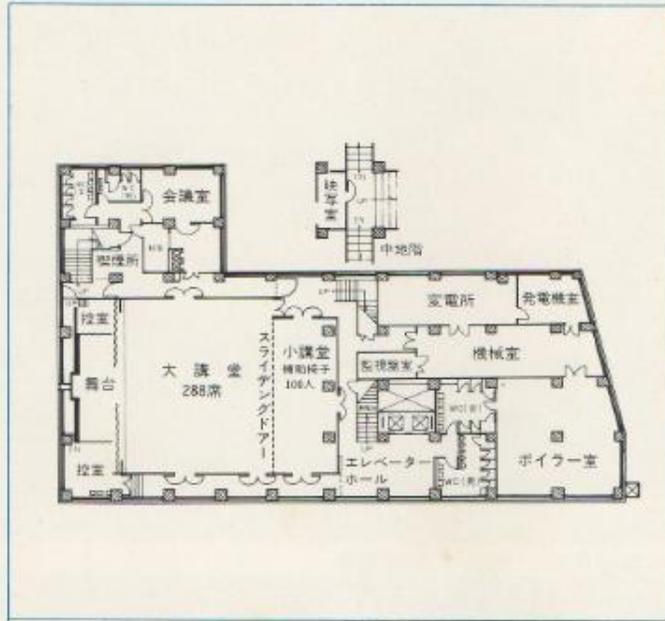
受電設備	3相3線式6600V受電変圧器 3相500KVA、単相255KVA
発電機設備	ディーゼル発電機125PS 3相3線式6600V、100KVA
昇降機設備	乗用エレベーター2基、ダムウエーター2基
電話設備	クロスバー型100回線分散型中継台方式
放送設備	トランジスター式、出力240W
電気時計	水晶発振式親時計1台、子時計29台
大講堂設備	調光、舞台、放送、映写各装置
防災設備	屋内消火栓、スプリンクラー、自動火災報知機、非常放送設備、排煙設備
T.V.共聴設備、	エアージューター設備

空調設備 温水ボイラー2基、ターボ冷凍機1基、ファンコイル36台
給排水設備、給湯設備、ガス設備、厨房設備

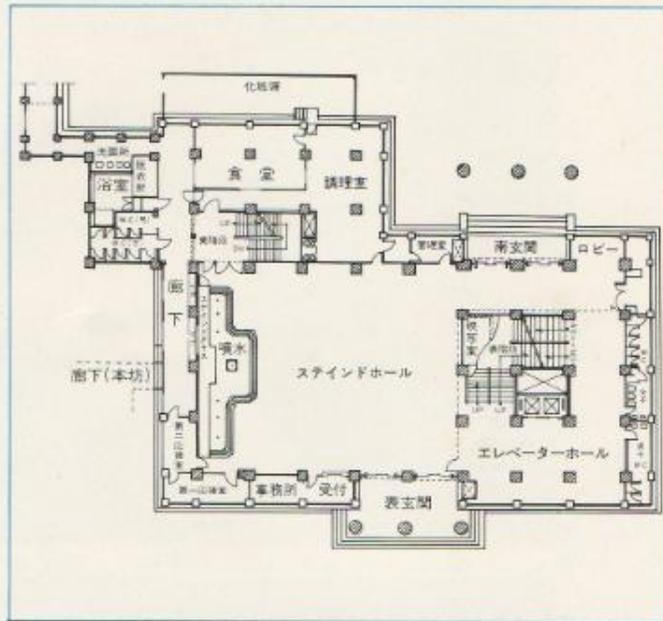
■ 信徒会館建設事業経過概要

- 昭和42年11月21日 「川崎大師信徒会館建設委員会規定」が制定され、同日付をもって、平間寺山内に建設委員会発足。
- 12月1日 「川崎大師信徒会館建設趣意書」を発表。広く檀信徒各位に建設資金の寄進方を依頼。
- 昭和43年7月18日 建設委員会に建築、勧募、財務の各小委員会設置。
- 昭和44年6月1日 旧祈禱殿（昭和38年12月開所）敷地を会館建設地に選定したため、新自動車交通安全祈禱殿建設工事に着手。
- 昭和45年11月22日 新自動車交通安全祈禱殿落慶大法要修行。
- 昭和46年2月21日 大岡実建築研究所に設計委託。
- 3月10日 信徒会館建設工事請負を株式会社大林組に決定。
- 5月8日 旧祈禱殿並に付属建造物の解体工事に着手。
- 6月12日 信徒会館建設・地鎮祭修行。
- 6月21日 起工式修行。
- 12月20日 基礎コンクリート打設を開始。
- 12月26日 鉄骨建て方に着工。
- 昭和47年3月26日 上棟式修行。
- 10月25日 コンクリート打設を終了し、仕上げ工事に着工。
- 昭和48年6月13日 大棟に金色の宝塔取付け。宝珠の中に、当山貫首謹刻の胎藏界大日如来尊像をご安置。
- 10月30日 地階大講堂に大緞帳取付け完了。
- 10月31日 内外装仕上げ工事完了。
- 11月20日 定礎式執行。
- 11月23日 地階大講堂ご本尊に金剛界大日如来尊像ご遷座。
- 11月25日 信徒会館落成式修行。
- 11月26・27日 信徒会館落成ご披露。

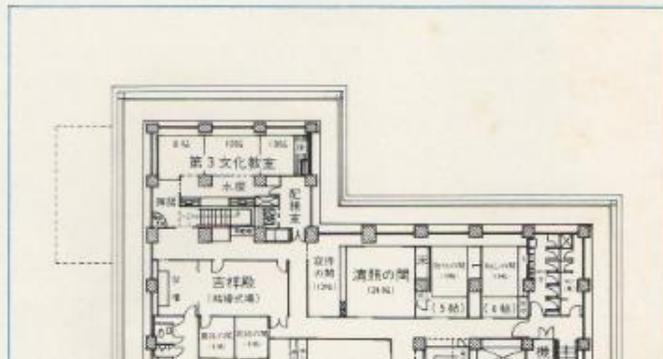
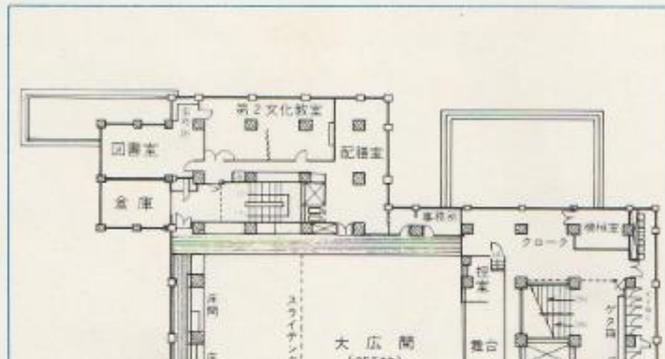
各階平面図

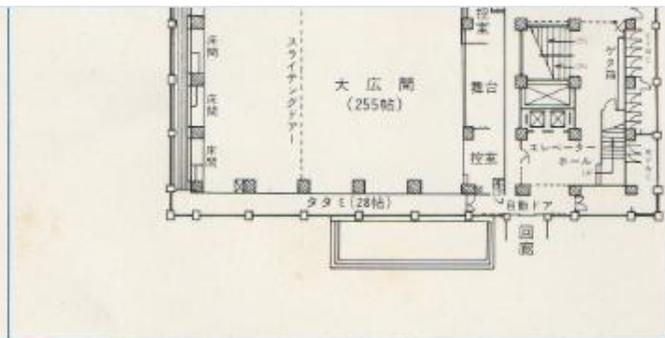


▲地階 面積1,203,251㎡(363,984坪)

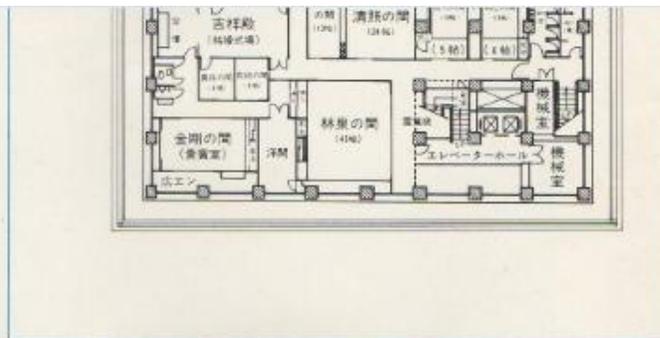


▲1階 面積1,506,640㎡(455,759坪)

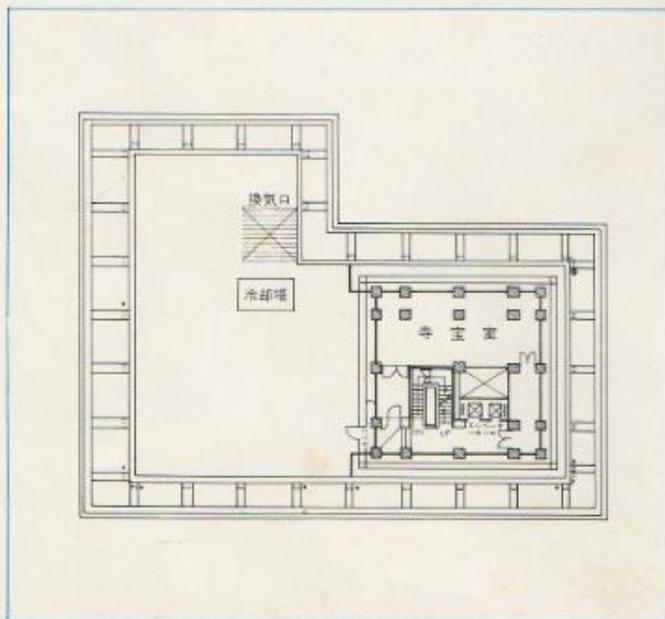




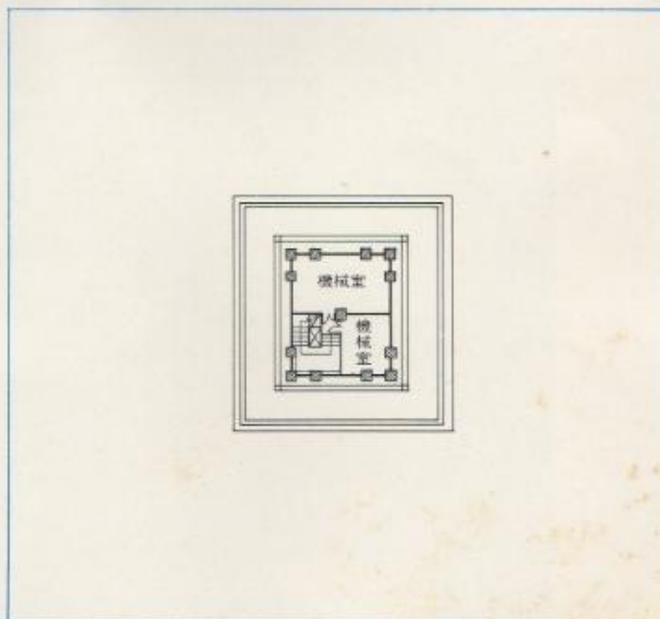
▲ 2階 面積1,385,000㎡(418,963坪)



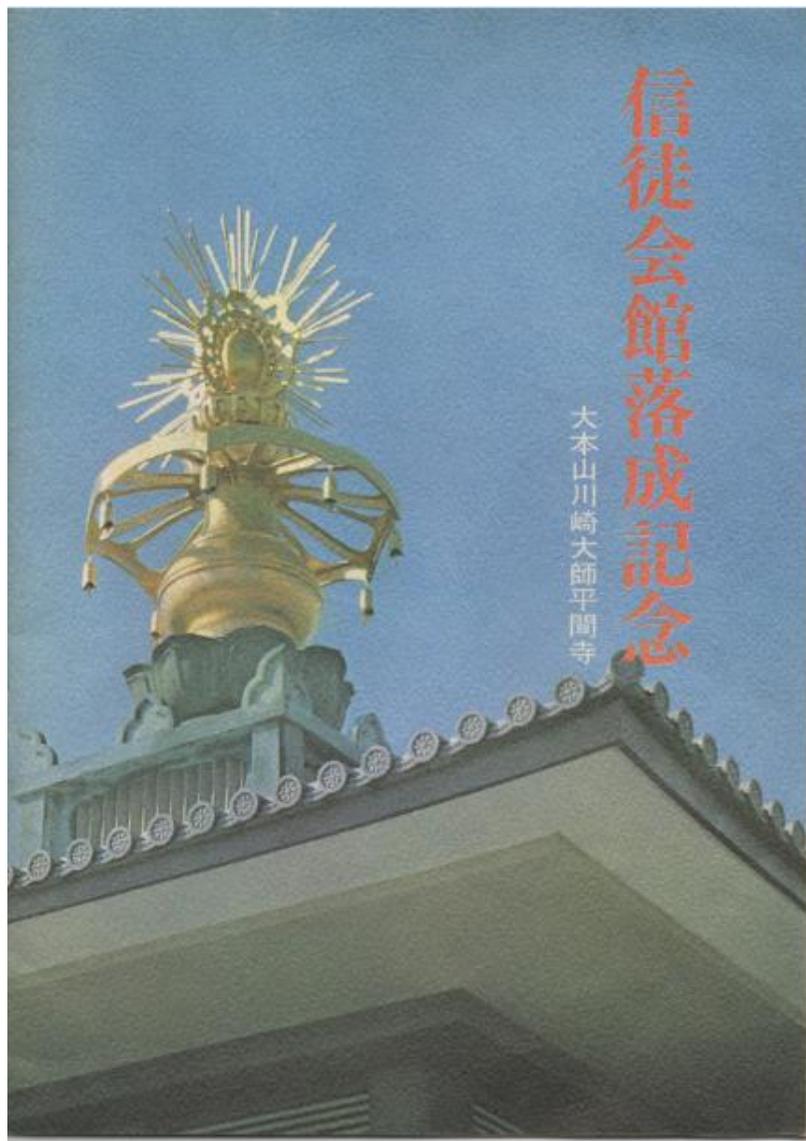
▲ 3階 面積950,000㎡(287,375坪)



▲ 4階 面積225,000㎡(68,063坪)



▲ 塔屋 面積100,000㎡(30,250坪)



右手は薬師殿(旧自動車祈禱殿)



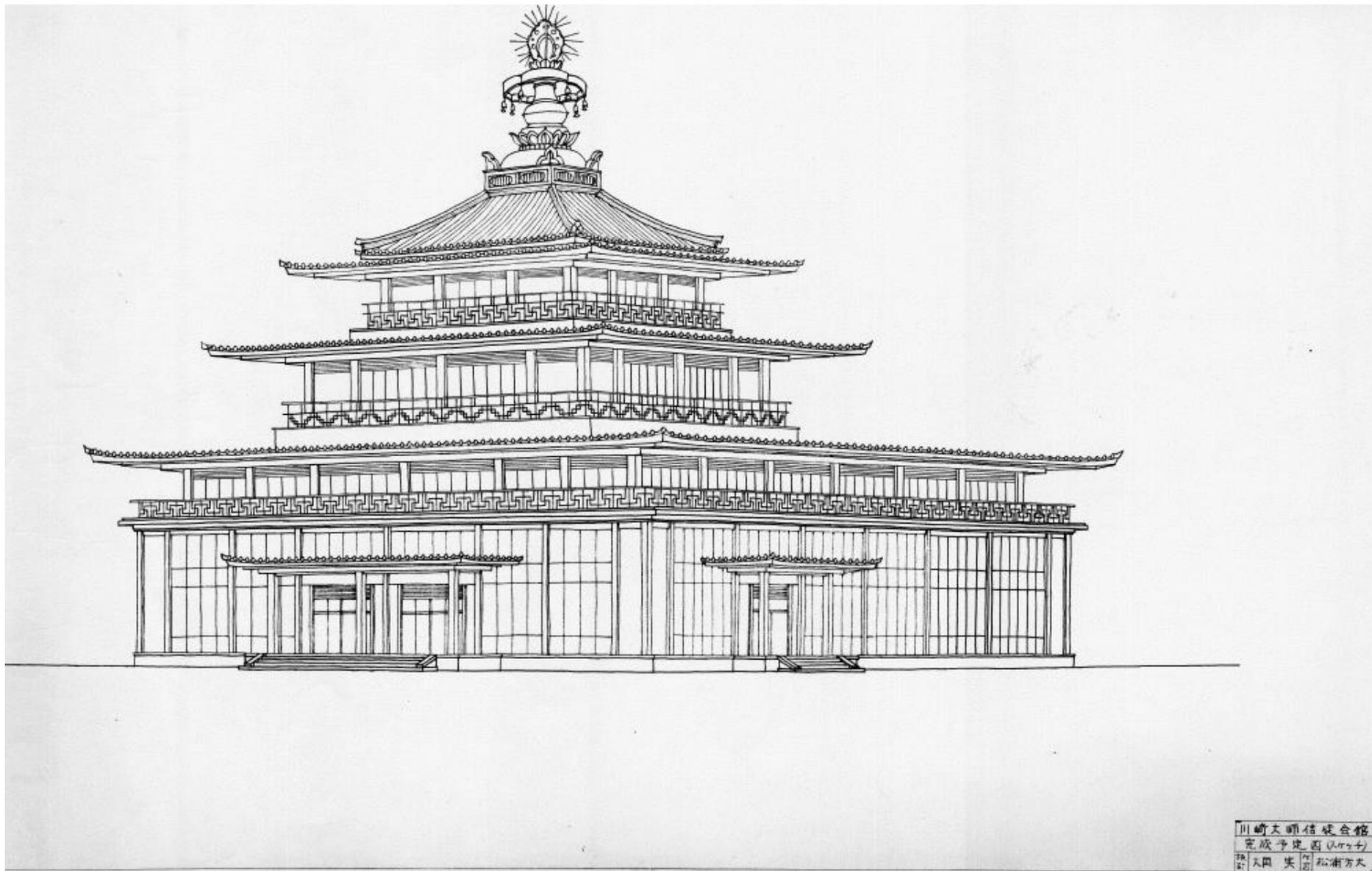












川崎大晒信使台館
完成予定図 (1/100)
設計 大田 実 監製 松浦 芳久

右手は至真門





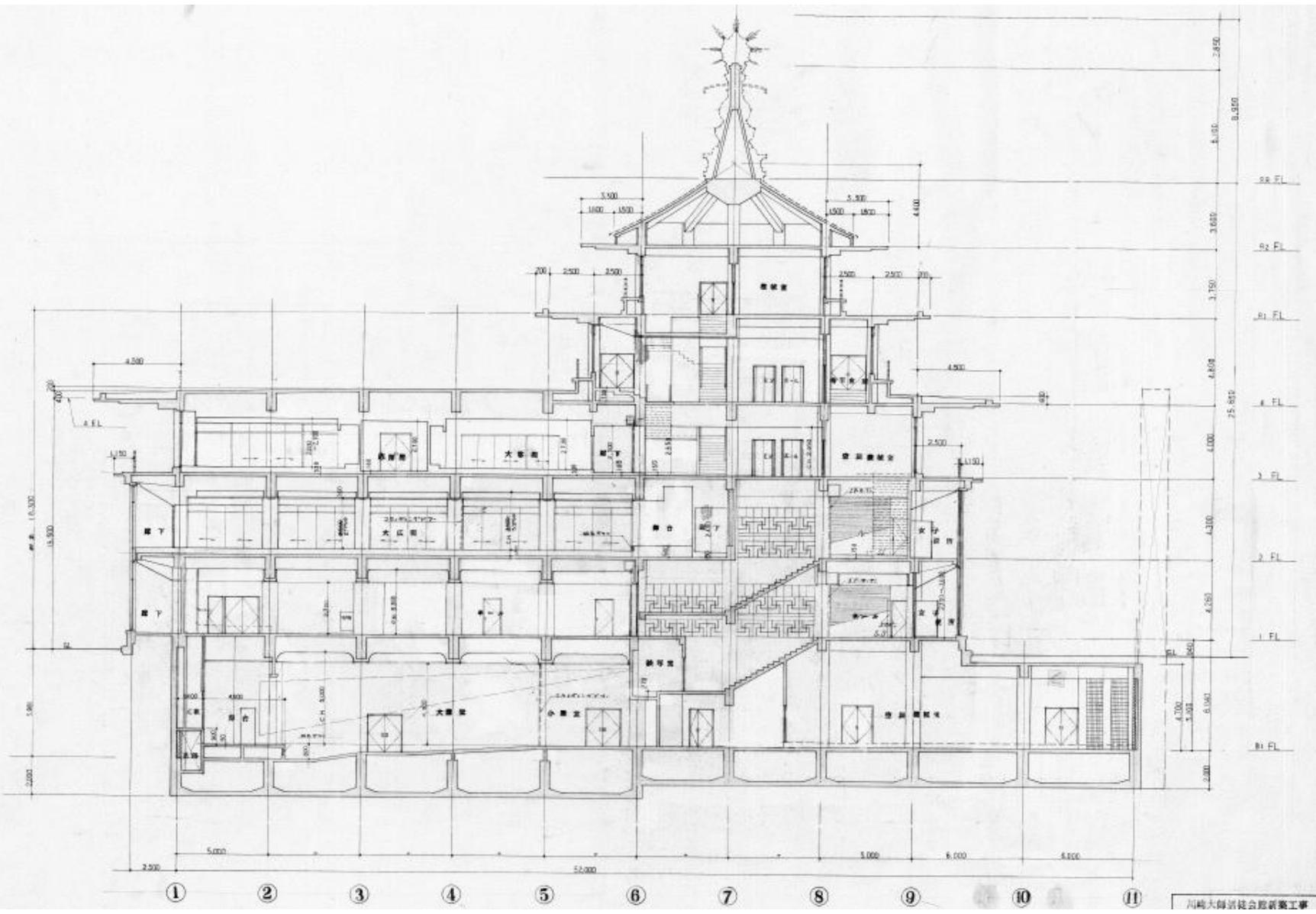
手前は西解脱門



左手は西廻廊(長庚廊)











宝珠、露盘



13.信徒会館



弘法大師ご誕生1200年鑽仰と、昭和49年当山大開帳奉修の記念事業として建設された信徒会館は、当山の教化の殿堂であり、更にご信徒と共にある会館、社会への奉仕につながる会館として活用されています。

金色に輝く宝塔は、御本尊厄除弘法大師のご誓願宣揚と正法興隆を目指す根本道場の象徴であります。

年月	西暦	工事名	所在地	工事期間	助手	構造設計	施工	構造種別
昭和47	1972	川崎大師平間寺 信徒会館	神奈川県川崎市川崎区大師町4-48	昭和47~48.11	松浦弘二	松本構造設計	大林組	SRC造